

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会・会報

2010年7月25日

37号

発行者 鈴木 克彬

発行所 ぐんま日独協会

〒371-0105

群馬県前橋市富士見町石井 2445-219

027-288-4297



平成22年3月25日『ザールブリュッケン独日協会との友好関係の締結』調印式

ザールブリュッケン独日協会との友好関係の締結について	会長 鈴木克彬2
ぐんま日独協会総会開催報告	2
全国独日協会連合会総会(ロストック)に出席報告・少年サッカー交流報告	3
日独交流文化講座(4回)開催報告・パントマイムグループ来県報告	4・5
日独友好通商条約締結150周年記念行事案内・9~10月ドイツフェスティバル案内	6
南ドイツ蒸気機関車(小型)エクスレ鉄道	会長 鈴木克彬7
ドイツサロンの案内・ドイツ語教室の案内	8

ザールブリュッケン独日協会との友好関係の締結について

ぐんま日独協会 会長 鈴木克彬

平成20年(2008年)の春、全国独日協会連合会総会がドイツのカールスルーエ市で開催された時、『ドイツ14ヶ所の独日協会を巡る旅』のご案内が、日本の連合会を通して、ドイツ側からありました。そこで、ぐんま日独協会として会員の方々にご案内したところ、9名の応募があり、4月から5月にかけて、全国約50名のメンバーの方々とともに各地の独日協会を訪問しました。

その際訪問したザールブリュッケン独日協会から、木村敬三全国日独協会連合会会長代行(元駐独大使)宛、『日本側の協会と友好関係を締結したい』との要望がありました。そして木村大使から「ぐんま日独協会ではどうか…」とのお話があり、役員会等での協議、相手側との数度の調整を経て推進することとなり、昨年8月にドイツで調印、更に今年3月、日本側群馬で木村元大使立会いのもと、調印を行いました。

その後の経過としては、既に少年サッカーチームの相互訪問、ドイツパントマイムグループの来県、女子大学生2名のホームステイ受け入れ、小学生の絵画相互交換等が始まっています。ドイツ側は、スポーツ、文化面だけでなく、科学技術、経済面での交流も期待していますが、当件はこれからの課題として、余り無理のない範囲で検討して行きたいと考えています。

『蒔かぬ種子は生えぬ』という諺があります。トライして初めて芽が出て花が咲き、実るものだと思います。会員皆様の暖かいご支援とご協力をお願いいたします。

総会の開催・・・二期目を迎える鈴木体制

平成22年4月17日(土)、群馬県昭和庁舎3階35会議室において、ぐんま日独協会の総会が開催されました。對馬副会長兼事務局長の司会、西田副会長の開会挨拶で始まった総会は、予定された議題がすべて承認可決され、鈴木体制の二期目継続が承認されました。

特に、来年の平成23年(2011年)は、江戸時代、幕府がプロイセンと日独通商条約を締結してから150年目の節目の年となり、全国的に記念イベントが行われます。

ぐんま日独協会としては、『第4回ドイツフェスティバルinぐんま』を、新企画も取り入れ、23年9月を目標に記念行事を盛大に行う予定です。また来年の6月上旬には、『ぐんま日独協会としての訪独』も考えています。その節には、是非ご参加ください。

総会終了後、ぐんま日独協会理事の、松浦孝久さんから、『ベルリンの壁、崩壊から20年』と題してのお話をうかがいました。

鈴木会長夫妻、全国独日協会連合会総会(ロストック)に出席

平成22年5月にロストック(ドイツ北部バルト海に面したハンザ同盟都市)で開催された全国独日協会連合会総会に、鈴木会長夫妻が、木村敬三元駐独大使ご夫妻、藤本修日独協会理事ご夫妻、橋本孝とちぎ日独協会長とともに参加・出席しました。鈴木会長は、兼務の全国日独協会連合会副会長として、ドイツ側の方々と交流・懇談を行い、お互いの親睦を深めました。

日独少年サッカー交流

ぐんま日独協会とザールブリュッケン独日協会との友好関係の締結に伴い、最初に出て来たテーマが、少年サッカーチームの交流でした。そこで以前から懇意の前橋市の関南(TONAN)サッカークラブの菅原宏理事長にお話したところ、とんとん拍子に話が進み、相互交流が実現することになりました。

関南少年サッカーチームが訪独

U-13の少年サッカーチーム28名の訪独が第一弾となりました。

日程は、平成21年8月16日からの6泊8日の日程で、ドイツのU-13チームと6試合、宿泊は、ザールラント州のスポーツシューレで3食付の生活でした。少年達は、市内観光もさせてもらったようで、あらゆる点で楽しんだとともに、勉強になったと思います。

更に今年22年も、関南の少年達18名+2名(大人)が8月に6泊8日の日程で訪独します。そして今年は、交流試合の他に、ブンデスリーガー(日本のJリーグ)を見学する予定です。

ドイツ少年サッカーチームが群馬の大会に

一方今年の3月、ドイツの少年チーム18名が来県し、群馬県で行われた『ぐんまチャレンジカップU-13』の大会に参加し、全国から参加した60のクラブユースチームと8試合を行い、第5位の成績を収めました。一方生活面では、ドイツの少年達は、日本の少年達の家ホームステイをしましたので、日本の家庭・文化にも触れ、楽しい国際交流が出来たものと確信しています。

横浜のドイツ学園サッカーチームが来県

ドイツ本国からではありませんが、横浜にある『ドイツ学園の少年サッカーチーム』が、9月に前橋市で行われる国際大会に参加のため、2泊4日の日程で来県し、試合と群馬(関南)の少年宅でのホームステイを行います。

日独交流文化講座（４回シリーズ）を開催

テーマ・・・ドイツを学び・日本を知ろう・・・

平成22年2月県国際課のご協力をいただき、群馬県庁2階のビジターセンター室で、次のような4講座を開催しました。水曜の夜、18:30~20:00という時間帯にもかかわらず毎回盛況で、主催者として大変うれしく思っております。

ここにその概要のみ、報告します。

A 2月3日(水) 橋本 孝先生 宇都宮大学名誉教授・とちぎ日独協会会長

演題 『日独の若者交流に携わって』

日本は明治以降、富国強兵、文明開化の両面を達成させるため、ドイツから医学、音楽、科学技術等々、ハード・ソフト面を含め多くのことを学んで来ました。そして多くの留学生達が訪独し、世界の最新の文化・技術を日本に導入し、日本は発展して来たのです。

森鷗外、北里柴三郎、山田耕作、滝廉太郎等々、名前を挙げたらきりがありません。ところが、最近 は留学する人が減っており、私は非常に心配しています。

この傾向は、ドイツだけではなく、米国への留学生も減っています。どうか多くの学生が、進取的精神を持ち海外に目を向けるような機会を多く作ってください。



B 2月10日(水) ベアーテ・フォン・デア・オステン氏

・・・ドイツ連邦共和国大使館 通訳・翻訳部長・・・

演題 『言葉の違い・文化の違い』

通訳の仕事は、単なる言葉の相互通訳ではない。相互の国に根ざした、文化を理解したものでなくてはならない。そのため、事前の調査・勉強が必要であり、また当事者のミッション・気持ち等も理解しておく、良い通訳が出来ると思っている。

日本では『検討する』ということばが有る。その言葉は、賛成 (yes) と否(no)の両方の場合で使われる。

特に外交問題等の場合は、取り返しのつかないケースもあるので、事前の確認。調査等も重要だと認識している。



C 2月17日(水) 沖津弘良先生 草津ベルツ館 館長

演題 『日本におけるベルツ博士の功績と草津』

ベルツ博士は明治9年(1876年)6月横浜着、12月から東京医学校(東大医学部の前身)の内科教師に就任した。その後博士は、多くの医師を育成するとともに、日本全国医療制度の展開にも力を入れ、その功績は、『日本医学発展の父』と言っても過言ではない。一方皇太子(後の大正天皇)が病弱だったため、天皇家の侍医としての役割も担い、日本国家からも“大変感謝され、日本国最高の勲章”まで授与されている。

一方草津への惚れ込みようは大変なもので、博士は草津の土地を購入している。



D 2月24日(水) 廣瀬正史先生 高崎少林山達磨寺住職

演題 『建築家ブルーノ・タウトと少林山達磨寺』

ベルリンでの市民のための集合住宅(2008年世界遺産登録)の設計等、世間の脚光を浴びつつあったタウトは、当時台頭してきたナチスに疎まれ、日本へ亡命をすることになり、縁あって、昭和9年高崎の少林山達磨寺に身を寄せることとなった。

タウトは、2年3ヶ月少林山にある“洗心亭”でエリカ夫人とともに生活した。

当時のタウトの日記によると、“寺の住職はじめ家族の方々の親切さと散歩時に受ける近在の人達の暖かい心配り・優しさは素晴らしい”と感謝の気持ちを書き述べている。



ドイツ パントマイムグループの来県

ザールブリュッケン独日協会への訪問の折、私達は、当地でパントマイムグループ公演の妙技に出会い、その場で、グループのピアニストをしておられる名古屋出身の竹内・モーア・佐輝子さんと知り合いました。

その際竹内さんから、「近々日本に行く予定があり、その際は是非群馬訪問を実現したい」とのお話がありました。そして今回6月1日(火)の夜、前橋夢スタジオでのパントマイム公演が実現した次第です。

出演者は、パントマイム・・・ヨゼフ・ミシャエル・クロイツァーさん、ソプラノ・・・ウルリケ・フォルトマーさん、ピアノ・・・竹内・モーア・佐輝子さんの3名、公演テーマは『天国の愛』でした。当日の参加者は40名はその妙技に感服し、時間のたつのを忘れませんでした。

尚今回の公演で、ドイツ帰りの吉田博文さん(ドイツ在住28年のピアノ調律師、当協会事務局員)が専門知識を駆使しての大活躍でした。ご苦労様でした。

来年 平成23年(2011年)に行われる

日独友好通商条約締結 150 周年記念行事について

平成23年(2011年)は、徳川幕府が1861年、当時のプロシャと友好通商条約を締結してから150年目となる節目の年となります。そのため、全国日独協会連合会としては、来年の4月末にドイツから約80名の人達を迎え、奈良で記念行事と全国総会を行うことになっています。

一方、ぐんま日独協会としては、次の3点の行事を行う予定です。

A ドイツ訪問団60名の受け入れ

平成23年4月15日(土)、ぐんま日独協会は、孺恋村にある『ホテルグリーンプラザ 軽井沢』にドイツ人訪問団60名を受け入れます。当日の夜に同ホテルで“歓迎セレモニー”を行う予定です。参加・ご協力を・・・・・・・・

B ドイツへの訪問・・・自主企画で、10日程度

来年のドイツの総会は、6月の2日、3日、4日、ミュンヘン開催と聞いています。その為ぐんま日独協会は、総会に合わせてドイツ訪問を行いたいと思います。行き先は、ミュンヘンの他、ぐんまと関係のあるフッセン、ビーティヒハイム・ビッシンゲン、ザールブリュッケンを中心に考えています。

そして出来る限り鉄道を使う等、ユニークな旅を企画する予定です。

C 第4回ドイツフェスティバルinぐんまの開催

平成23年は9月に群馬県庁のホールをお借りして開催したいと思います。

内容的には、今まで行ったものを中心に、来年は更に一味違った企画が出来たら・・・と考えています。アイデアをお教えください・・・・・・・・

今年の9月と10月、ドイツフェスティバル

・・・ホテルグリーンプラザ軽井沢(孺恋村)で・・・

昨年に続き、孺恋村の上記ホテルで、『ドイツフェスティバル』が行われます。

期間は9月5日から10月末日までの約2ヶ月間で、当期間のホテルは、ドイツ関係のパネル、展示物で埋まる予定です。更に食事もドイツ料理が多く用意されます。ホテルでは「ぐんま日独協会の関係者には、特別価格を出します」と言っています。改めて、パンフレットとともにご案内します。折角の企画です。是非ドライブ方々、ご家族・ご友人ともども北軽井沢へお出かけください。

南ドイツ、蒸気機関車(小型)エクスレ鉄道

・文化遺産を守る地域の人々・鈴木克彬

1株株主

ぐんま日独協会の会員で、ドイツのビーベラッハ(ウルムの南50km)に在住経験があり、現在高崎にお住まいの白倉先生ご夫妻から、「エクスレ鉄道という観光鉄道(狭軌線路の19kmを土曜と日曜だけ走る蒸気機関のトロッコ列車)の株主になりませんか」とのお誘いを受けました。大の鉄道ファンであり、好奇心旺盛な私のこと、直ちに75ユーロ(10,000円)をお渡しして『1株株主』になりました。

そして今年の5月、ドイツのロストックで行われた『全国独日協会連合会総会』出席の折、日程を延長して家内と二人で当エクスレ鉄道の地を訪問した次第です。お世話してくださった白倉さんが事前に連絡しておいてくださったため、“遠い友好国日本からの株主・お客様”ということで、大変な歓迎を受け、蒸気機関車の運転席にまでのせてもらいました。

地域の人々の愛情と努力

私が感動したのは、地域の方々の『愛情と熱い思い入れ』です。そもそも、この列車は、1898年(明治21年)開通したもので、当時は物資の運搬を目的に作られたとのこと。しかしその後の社会情勢の変化から、採算不能となり、1964年(昭和39年)廃止となってしまいました。

ところがこれが復活したのです。私たちを案内してくださった役員さんは、元検察官、責任車掌さんは元大学教授等、地域ぐるみ体制で列車を運行し、また財政的には、地域の多くの方々が『株主』になってくれたそうです。

驚いたのは、この列車は殆んど森や草原を走りますが、たまに自動車か走る公道を横切ります。その時は列車が一時ストップし、車掌が降りて、手旗で自動車を止めてから、汽車が走り出すのです。踏切には、遮断機や信号はないのです。運行までには警察当局との折衝をはじめ、安全面での整備や関係機関との調整はきっと大変だったと思います。

進取的且つボランティア思考の向上

考えるだけでも、頭が下がる思いです。そして、この楽しみながらの努力・行動を支えているものは、『地域への愛情』ではないか、と感じました。昨今の日本は、個人、地域、企業等のエゴが第一番に出てしまう傾向にあり、地域のため、将来のためという進取的思考やボランティア精神が減っているのではないかと改めて感じた今回の旅でした。・・・ご希望があれば、当鉄道の株主に・・・

注記 現在、ぐんま日独協会では、白倉夫妻、鈴木夫妻、高野夫妻、近藤さんが株主です

盛況！ ドイツサロン

…是非、一度お出かけください…

平成20年6月から『ぐんま日独協会主催』で毎月第1土曜日の午後、ドイツ人を必ずお迎えして高崎で開催している“ドイツサロン”が盛況です。通常、30名以上はお集まりいただいています。7月3日(土)のドイツサロンは、40名以上の方がお見えになり、椅子が足りないくらいでした。

話題・テーマについては、毎回2つのテーマについて、鈴木和子さん(会長夫人で上毛新聞に連続執筆掲載された記事)の朗読から始まり、その後、みんなでフォロー・質問・意見交換という形式をとっています。ドイツ帰りの方も多く、話題豊富で盛り上がり、意見交換がなかなか止まらないのが現状です。事前の予約等は不要です。是非お出かけください。

開催日時 毎月第一土曜日 14:00~18:00

…サロンですので参加時間は自由です、ご都合のつく範囲で…

開催場所 ドイツロンネフェルト紅茶店『陶豆屋』サロン室

住所 高崎市石原3235 電話 027-327-4151

会費 お茶代として、一人500円です

8月のテーマ 8月7日(土)のテーマ『くまさんのグミ』と『パークアンドライト』

ドイツ語会話教室のご案内

現在ぐんま日独協会では、東京からドイツ人オストヴァルト氏を迎えてドイツ語講座を行っています。概要は次の通りです。ご家族・ご友人を含めお出かけください。

講師 イェンス・オストヴァルトさん(ドイツ人・男性・37歳) 東京在住

開催日・時間帯とクラス

毎月 第2日曜日 10:30~12:45 ドイツ語 基礎講座 120分

13:00~14:30 ドイツ語 中級講座 90分

会場 前橋市元気21内3階 前橋市『市民活動支援センター』会議室 027-210-2196

受講料 基礎講座 一回当り 120分 2,500円 当日お支払い

中級講座 一回当り 90分 2,500円 ”

初級講座は、ご希望のある場合は、別途考えます。

申し込み 1 オストヴァルトさんに直接・・・E-mail; ostwald@doku-wa.com

2 ぐんま日独協会事務局 大熊・鈴木宛・・・ご返事します

TEL&FAX 027-288-4297 E-mail katsu959@mtf.biglobe.ne.jp

他に、高崎商科大学の松永先生を中心に、高崎のドイツサロンを会場として定期的に“ドイツ語勉強会”を開催しています。 お問い合わせは027-327-4151 陶豆屋に